

澤木 誠一氏を偲んで

(昭和26年電気科卒)

澤木誠一先輩は3年間自宅療養中のところ令和4年12月25日に老衰(90歳)で逝去いたしました。人生100歳時代心残りかなと思うと残念です。心から哀悼の意を表し心からご冥福をお祈りいたします。澤木会長と一杯飲んで酔いながら話されたことを思い出してみました。

澤木氏は秋田工業に昭和20年に電気科に入学しました。学制改革において、中学・高校と6年間勉学に励みました。1年間柔道部に入学されたようです。家庭の事情で学生時代にラジオなど組み立てなどのアルバイトで授業料など工面しながら勉学に励んだようです。卒業当時不況で就職難であったが、頑張ってNHKに内定をもらったが、父親の後妻に弟がいた関係から秋田におられたら困るといわれて県外に就職を求めて、難関を突破して日立製作所日立工場に勤務されました。家庭の事情から布団一つで上京されたようです。優秀な学生でした。

日立の秋田工業の先輩から週末に自宅に招いていただきお世話になったようです。優秀な先輩にどうして部長になれないか尋ねたところ、高卒は課長になれば良い方だといわれ、納得いかず、2年勤めた後一念発起して、東京理科大学二部に入学し結核の療養(長姉にお世話になったようです)と弁理士の試験に挑戦し卒業と同時に一回で合格し、特許事務所に勤務後昭和34年に澤木萬國特許事務所を開業し、10年後には港区の高額取得長者番付けに載るほど頑張ったようです。為替が360円時代にハワイに新婚旅行に行ったことを自慢していました。

弁理士会の副会長を務められ平成元年春に黄綬褒章を受章され、平成15年秋に旭日双光章を受賞されました。小野清子大臣を招き東京プリンスホテルにおいて、祝賀会を盛大に開催し多数の方々から祝福を受けて先輩を誇りに感じました。

昭和61年に東京秋工会の三代目の会長職を20年間務められました。就任に際し、「母校で6年間育ててくれたので、母校に寄与するとともに東京秋工会として、秋田から県外に巣立った同窓生のためのオアシスとなり、母校・秋田に対する恩返しになると思ひ引き受けた」と申されていました。

平成9年から秋田県高等学校同窓会連合会の4代目の会長職を10年間務められ、秋田という心のふるさとを共有するお互いの絆を一層強められる活動をされました。

私は昭和62年に会長の虎ノ門第10森ビル8階事務所で開催された幹事に初めて参加させていただきました。午後6時からの会議開始前から副会長等がビール・酒を飲みながら打ち合わせし、その後新橋・銀座二次会に繰り出しお世話になりました。澤木氏に「会議にどうして酒を飲むですか?」と尋ねたら、「二次会で多く酒を飲むとお金がかかるから下地を付けるため」と、楽しい打ち合わせ会でした。飲みすぎて、たまに事務所に泊まらせてもらうこともありました。

澤木氏は、高血圧に気を付けて酒のつまみは、塩分制限して、刺身は醤油を一切使わず、ワサビを付けていました。体に十分気を付けながら酒を飲み体が小さいがマムシのように精力満々でした。私も見習い今も塩分を控えるようにしています。



澤木 誠一氏

澤木氏は母校・東京秋工会・秋高連・けやき会等のほとんどのイベントに参加して、東京秋工会の確立と活性化に多大な功績を残されたことを心から感謝いたしております。



けやき会(2013年11月)

東京秋工会同好会において、囲碁・ゴルフ・釣りに参加しました。プライベートでは、毎冬スイスでスキーを楽しみ・小唄をたしなみ・カラオケでは、東海林太郎の歌を声高らかに歌い・趣味が多彩でした。特に(故)佐々木昭夫氏(S25M)とは、馬が合い親しくしておりましたが、第23回ゴルフ大会に佐々木昭夫氏が優勝した時には悔しがって負けず嫌いだなと感じました。仕事も一生懸命、遊びも一生懸命に人生を謳歌し楽しい人生を過ごされました。



釣り同好会(2010年11月)



釣り同好会(2011年6月)



囲碁同好会(2012年10月)



東京秋工会忘年会(2014年12月)

奥様から昨年のクリスマス日に主人がなくなり、コロナ禍の中家族葬で執り行い四十九日も過ぎたので、私に生前のお礼の連絡がありました。そこで、3月25日の月命日に戸塚の自宅に佐々木会長・遠藤幹事長・宮川副会長・小野監事・船木副幹事長・三平の6名が感謝とお礼に焼香してきました。奥さんより、「お孫さんが弁理士を目指して頑張っている、創業者として三代続いて事務所を引き継がれることが、天から喜んでいることでしょう」とお話がありました。

澤木様、長い間お世話になりました。心からお礼申し上げます。ゆっくりお休みください。先に亡くなられた佐々木昭夫氏が天国でお待ちしていることでしょう。 合掌

記事 三平 俊悦 (昭和39年建築科卒)

